

令和6年度第2回石垣市総合教育会議
議事録

1 開催日時

令和7年2月25日（火曜日）午前11時～午前11時30分

2 開催場所

石垣市役所 大会議室1・2

3 出席者

石垣市長 中山 義隆

石垣市教育委員会 教育長 崎山 晃

石垣市教育委員会 委員（教育長職務代理者）南 和秀

石垣市教育委員会 委員 金城 綾子

石垣市教育委員会 委員 浦崎 美紀子

石垣市教育委員会 委員 新里 裕樹

【市長】 皆さんこんにちは。年度末の大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。これより令和6年度第2回石垣市総合教育会議を開会させていただきます。

本日の協議事項は「石垣市教育大綱の改正について」でございます。委員の皆様から前回の会議でいただきましたご意見を基に、修正した教育大綱（案）について、企画政策課より説明をお願いします。

～第4期石垣市教育大綱（修正案）の説明～

【市長】 ただいま説明がありましたが、修正案につきましてご意見等ございましたらお願いします。

【教育長】 文言の確認です。資料1の1枚目のNo.5「(11) 総合型地域スポーツクラブの育成」の委員意見の説明の中で、「部活動の地域移行」とありますが、文言としては令和6年度から「地域展開」という表現を使用していますので、今後の説明でもそのように進めていきたいと思えます。「地域移行」という表現では、学校が地域に全て任せるイメージがありますが、「地域展開」は「一緒に広げていきましょう」というイメージを持っているので、「地域展開」という呼び方を使用するようになりました。

【市長】 他にご意見はございますか。

【南委員】 1点よろしいでしょうか。全体的には前回の会議の内容が反映されており、良いと思います。ただ、前回の会議で気づけばよかったですのですが、基本方針1で「確かな学力の向上」が謳われていますが、最近の文部科学省の学校教育の方針として、「令和の日本型学校教育」が打ち出され、学習指導要領も改訂されています。単なる「学力」ではなく、「資

質・能力の育成」に方向づけされています。将来を想像する資質・能力や教科の見方・考え方などが重視されています。そのため、基本方針 1 の文章には「基礎学力の定着を図り」とありますが、「基礎学力」だけでは現在の国の教育の方向性と十分に合致していないと感じました。「資質・能力の育成」を、何らかの形で盛り込む必要があると思います。「確かな学力」の中にこれらの要素も含まれているという認識を持つのであれば良いとは思いますが、文章の中に「社会の変化に対応できる能力の育成」とありますので、これを「社会の変化に対応できる資質・能力の育成」にするなど、より現在の教育の方向性に即した表現にするべきかと思います。

【教育長】 資質・能力の育成ですね。確かに重要なポイントです。

【南委員】 令和 6 年度「令和の日本型学校教育」で 1 番大きく謳われています。「将来を想像する資質・能力の育成」が重視されています。

【市長】 これは「社会の変化に対応できる能力」の部分に「資質」と入れても問題ないでしょうか。それでは入れましょうか。他にご意見はございますか。

【金城委員】 No.13「郷土の自然・文化を学び、地域に誇りを持てる教育の推進」の 2 行目についてですが、「伝統文化や文化財に対して理解を深めるとともに、地域と連携して児童生徒がスマムニ・三線・郷土舞踊を学ぶ機会を設け」の記述について、「郷土舞踊」の文言を訂正して頂きたいと思います。その理由は、舞踊の場合は音楽に合わせて体をリズムカルに動かすものですが、「郷土芸能」とすることで、映画、演劇、落語、歌謡、音楽、舞踊など娯楽全般を含む総称となります。「舞踊」もその中に含まれますので、「郷土芸能」を用いた方が適切ではないかと考えます。また 3 つの高校及び 3 つの中学校でも郷土芸能クラブがありますので、それらとの連携も可能になると思います。前回の会議では長々とお話ししてしまいましたが、今回文言等を検討し、意見をしっかり取り入れて整理していただき、大変ありがたく思っております。以上です。

【市長】 では、「郷土舞踊」を「郷土芸能」に修正することで進めましょう。他にご意見はございますか。

【教育長】 今、金城委員がお話しされた「地域に誇りを持てる教育の推進」という分野についてですが、3 月 5 日に教育委員会と市長への表敬訪問がありました。県の事業でハワイに交流に行った八重山高校の郷土芸能部の生徒 3 名が帰国後に訪問し、現地での経験を話してくれました。彼らによると、ハワイでは現地のアロハ語を小学校で教えており、アロハの踊りにおける手の動きが何を意味しているのかを現地の教育の中で学ぶ機会があったそうです。それを見て、「自分たちは郷土芸能で踊りを踊っているけれど、手の動きが何を表現しているのか深く考えていなかった」と気づいたとのこと。また、「シマムニを話したり、自分の郷里の石垣の踊りについてもっと深く知り、語れることが大事だと思った」と国外に出てより強く感じたそうです。また、「自分たちは“y u i n c h u (ゆいんちゅ)”というチームを作って、郷土の文化を知りたいことを、高校生と小中学生にもアピールしたい

ので応援してください」とお願いされたので、これに対し、「応援します」とお答えしました。大人から子供に伝えるよりも、少し年上の高校生から伝えた方が、自分の郷里の文化を語ることの大切さが伝わりやすいと思います。彼らがこの取り組みを進めたいと言っていたので、ぜひ応援したいと思います。以上、紹介でした。

【市長】他にご意見等はございますか。それでは、ご意見等がすべて出たかと思しますので、お諮りいたします。石垣市教育大綱の改正について、先ほどあった修正を全て反映した後、原案のとおり承認することよろしいでしょうか。

【委員全員】はい。

【市長】ありがとうございます。教育委員会、各学校等においては、せっかく良い案が出ていますので、この教育大綱に基づいて実行に移す施策の展開をお願いいたします。

以上